

蒼生

そう せい

1 2016年
月号

年頭の挨拶

院長 森末正博



明けましておめでとうござ
います。二〇一六年の新たな
年を迎え一言ご挨拶申し上げ
ます。

昨年は海外に目を向ければ
中東シリア・イラクの内戦・
ISの欧米へのテロの拡散・欧
米連合国のISへの空爆継続な
ど報復の連鎖が長期化し悲惨
な現実が続いております。

また一方で大村智氏のノー
ベル医学生理学賞、梶田隆章
氏の物理学賞受賞という喜ば
しいニュースもありました。

医療界におきましては地
域医療計画の工程表が各都
道府県単位に病床機能報告
のデータに基づき本格的
に2次医療圏内を中心に策
定されるようです。このよ
うな中当院も昨年は地域包
括ケア病床立ち上げに向け
て届出基準を達成すべく院
内の調整を図ってまいりま

した。順調にいけば本年2

月より病床運用を開始する
予定であります。今後も患

者家族の皆さんのニーズを十

分聴取して急性期から回復期

さらに在宅療養へ向けた医療

資源の有効な活用がおこなわ

れるよう当院職員（多職種）

の連携を密に、良質なサービ

スが提供できるよう努力して

いきたいと思っております。

急性期医療におきましては

以前より救急医療にも積極的

に取り組み、2次医療圏の2

次救急搬送病院としての役割を

果たすとともに症候別搬送に

も対応可能な体制と提供する

医療の質を常に向上させる組

織つくりを続けたいと思いま

す。

今後二〇二五年に向けて高

齢者・がん・認知症、この3

つのキーワードが非常に重要

含めた職員の知識・スキル
の獲得に向けた研修教育を
計画的に行っていくことも
重要と考えております。

さて当院は今年10月には

病院機能評価の更新時期と

なっております。現在われ

われが行っている医療・看

護・介護の質を第三者に厳

格・公平・客観的に評価い

ただき、良質な評価を頂い

た分野については一層の質

の向上を目指す必要がある

と考えます。もしも、改善

を要すと指摘された部門が

あれば真摯に問題点を洗い

出し組織的に改善に向けて

取り組みます。

今後ますます地域の皆様

からは頼りがいのある病

院、さらに職員には働きや

すくやりのある病院の

実現へ向け全職員とともに

努力する所存ですので引き

続き皆様方のご指導ご鞭撻

をよろしくお願い申し上げ
ます。

第22回 福山医学祭（演題）

福山市医師会館にて

血液透析患者のセルフケア支援にポートフォリオを活用して

～安定した透析ライフを送るために～

透析室 大迫美紀 渡部英雄

アドバンスケアプランニングにおける外来看護師の役割

～自宅で過ごす事を望んだ成人男性との関わりから～

外 来 竹中昌恵 住吉倫世

術前訪問をみなおして

～手術のイメージ化をはかり不安の軽減を求めて～

手術室 吉川宣世 安原知里 細谷真砂美

晩節を思惟する

名誉院長
飯島崇史

富士のふもとで開催され、往年のフォーク歌手たちによるコンサート「フォーク富士」をテレビで見た。青春時代に遡行したようで懐古の情を覚えたが、皆それなりに

年齢を重ねて60〜75歳。衰えは隠しようもないが、そんな中、森山良子や因幡晃は声量もあって、昔をしのばせるその歌唱力に感じ入った。しかし、かまやつひろしの「我が良き友よ」には失望した。生きのよさが売りのはずなのに、活気も声量もなく、あろうことかギターコードのみならず歌詞まで間違える始末。75歳という歳を差し引いたとしても出演料をとるプロとしてはいかなものか。「晩節」という言葉がふと脳裡をかすめた。

この言葉、少し前に耳にしたことがある。猪瀬直樹が東

批評家たちから「ひび割れた骨董」と酷評されたことはまだ記憶に新しい。その後1986年に再来日したときは、技巧に走らずピアノを歌わせる色彩豊かなトーンの演奏に切り替えて高い評価を受け、面目を保ったのはさすがというべきだが。

文学では斉藤茂吉の最終歌集「つきかげ」がやり玉に挙げられた。茂吉の晩年の歌集「小園」「白き山」の絶唱があまりにも素晴らしかったため、そののち、付けたりのように出された最終歌集「つきかげ」は上田三四二によって「どうでもいい歌集である」とぼつさり切り捨てられたのである。文学における老作家が生

気のない作品を書く、いわゆる老醜をだれよりも嫌ったのは、かの三島由紀夫であった。記録によると、彼は生前母に老作家の名を2〜3あげて「僕はこうなると困るんだ。みつともないじゃないか」と

新入職員紹介
(平成27年10月以降に入社)
形成外科医師 亀井千裕
事務 藤井真利奈
事務 藤原史帆
事務 原恵美香

お知らせ

栄養管理室主催の「かんたんクッキング」が12月に開催されました。今回のメニューは、イチゴサンタと簡単レンジで焼き豚です。



ピーナッツしかり。日本武道館での最後のコンサートで「私のわがまま許してくれてありがとう。幸せになります」といってステージにマイクを置いて去っていった21歳の山口百恵しかり。42歳で突如引退し、小津安次郎監督の通夜出席を最後に表舞台から姿を消して、先般95歳で逝去が報じられた原節子もまたしかりである。

では高い評価には縁のない我々凡人には「晩節」は関係ないのだろうか。いや凡夫だからと安心ばかりしてはいられない。超高齢化社会は認知症に対峙せざるを得ない状況を作り出しているからだ。昼夜を問わず大声で「バカ」とか卑猥な言葉を延々と叫び続ける認知症の媼がいる。娘さんのため息混じりに「お母さん、昔はこんなこと言う人じゃなかったのに」と嘆くこと

しきり。一般に人の品性が人生最後の状態で判断されるのだとしたら、こんなに恐ろしいことはない。同室者の家族、病院職員などに顔を合わす人の大半は媼の華やかなりし姿を知らないはずだから。以前、自らの経歴、業績など紹介するこ

とのできない方のため、ベッドサイドにその人が一番輝いていたときの写真などをかざしておくことを提案した。その方の尊厳を守るための一助になればとの思いからである。枕元を訪れるすべての人がその人の生き様に思いを致すやさしい心を持つてほしいと願ってやまない。

では小生がそのような立場に置かれたとしたらどうだろうか。他人の手を煩わさなくてすむように、どれ今のうちにもう少し拙文でも書き溜めておくとしようか。

法律相談や異業種交流会で「先生の専門は何ですか？」と聞かれることがよくあります。

病院であれば、「〇〇内科」「××眼科」等の科名が名前に入っていることが珍しくありません。患者は、症状のある部位の科名がついた病院か総合病院に行けばよいので、非常にわかりやすいです。

ところが、法律事務所名に「交通事故」「離婚」等の名称が入っていることはまずありません。その弁護士専門・得意分野は、弁護士本人に直接聞くか、一部の弁護士会や得意分野を明記した各法律事務所のHP等を見ない限りわからないのです。

そのようになっていく理由の1つに、日弁連が「弁護士は専門性を謳ってはならない」と言うルールを定めていることが挙げられます。もう

～プロムナード～

弁護士の専門分野

土道法律事務所 弁護士 飯島充士

少し説明すると、「現状では専門性を担保する認定制度等がなく、自称専門家が出てくると国民の信頼を損なうおそれがあるので『専門』という表示は控えるのが望ましい」とされています。その一方で、『得意分野』という表

現は弁護士の主観に過ぎず、国民もそう考えるはずなので用いてもよい。」「とはいえ、得意でないものを『得意』と言うと事実と反するおそれがあるので、豊富な経験を有しない分野は『積極的に取り組んでいる分野』『関心のある分野』と表現するのが正確かつ誠実である。」としています。

日弁連の言いたいこともわからないではないですが、個人的には、世の中のニーズを無視した時代遅れな考え方は、と感じます。ヤフーやグーグルのキーワード検索の内

容を見てみれば、弁護士を探している人の多くが専門性に関心を持ち、『専門』という言葉を入れて検索していることが分かります。こういった依頼者の要望に応えられない枠組みを作ってしまうのは如何なものか、と。

ただ、これまでの法律事務所は何でも扱う総合病院的な事務所が多かったのですが、大都市では特定の分野に特化して生き残りを図るところも出てきています。こういった流れの中で、先のルールもこれから少しずつ変わっていくのかもしれない。

冒頭に返って、私が『専門』を聞かれたときは、「今うちの事務所で取扱が多いのは交通事故、労働問題、不動産トラブルといったところなんです。」と答えています。問いに対する正面からの回答になっていませんが、大体これで納得してもらっています。



職員旅行記 山口

事務部 山中



振って送り出してくれた職員に別れを告げ、職員旅行が始まりました。

今回の目的地山口県までは高速道路で約3時間。途中サービスエリアでの休憩を挟みバスは最初の目的地秋吉台

11月22日、楽し

みにしていたこの日がついにやって来ました！早朝6時50分集合！バスの中はこの時間のテンションとは思えないほどの盛り上がり。北病棟のベランダから手を

自然動物公園



ゾーン！マライカ・サバンナ（チーターエリア）ハタリ・バレー（ライオンエリア）ドルガー・レイク（トラエリア）。近く



で見る猛獣は迫力があつて何より

この時期冬眠に入りますがサファリランドのクマは観光客がクマを見られなくなるため冬眠しないそう。ここからが危険



初めて見る秋吉台、初めて通る秋吉

動物エリア。アフリカゾウやシマウマ、ラクダなどが生息しているエリアを抜け次はロッキー・ウェットランド（クマエリア）。アメリカクロクマが生息しています。クマは

ゾーンを大満喫した後はふれあい広場でヤギやウサギ、カインガルなど戯れました。レッサーパンダのすぐそばにあるレストランで昼食をと

り、お腹が満たされたところでバスで10分程の所にある最後の目的地秋吉台・秋芳洞へ向かいました。初めて見る秋吉台、初めて通る秋吉



えてきました。自然の形成の見事さに、思わず足が止まります。中でも印象に残ったのは百枚皿。水たまりの淵が堤防状に固まり、それが長い年月を経て盛り上がり皿状になって何段も重なったもの。実際には500枚以上あるそうです。自然が作り上げたとは思えない光景に見とれました。何百年、何千年という時間の積み重ねによって形成された自然の壮大さはとても神秘的でした。

今回は動物と自然に癒されて、とても良い思い出となりました。





持ち回り読書コラム「第八回」

海か 溪流か、貴方はどちら

今回紹介し上げるのは、ヘミタ昇る、「キリマンジェロの雪」をシグウェイ 釣文学全集 上巻は鱒、下巻が海釣りの2巻構成となっており、個人的には上巻がお勧めである。

この全集との出会いは12年位前であつただろうか。竿を握らなくなつて早や5年にもなる私ではあるが、往時は、狂つたようにメバル釣りにのめり込み、メバル無しには夜も明けぬといった具合。時間さえあれば、いや、何とか時間を捻り出しては、宇和島や佐多岬までの遠征を重ねた。それはまるで、2本の延竿があたかもキリギリスの触角の如き形状で私の頭から生えているのではないかと

いつた錯覚さえ覚える様な日々であつた。

そんなある日、釣行をあきらめた風の強い雨の週末だったような気がする。書棚に濃緑に装丁された見慣れない2冊の本を見つけた。どうも長男が求めた物らしい。ヘミング

ウェイの著作としては、「武器よさらば」や「日はまた

わけていなかった。ところが、である。この全集に収録された幾つかの小編を読んで、全く違つた印象を持つた。その中身が何であつたのかは、今では忘却の彼方だが、上巻の鱒釣りに特に鮮烈な何かを感じた事だけは、今でもはっきりと覚えていた当時の状況の為せる業か…。

ともあれ、この度その全集を改めて手にとつてみた。曖昧な記憶を辿りながら探した小編は、確か…両大戦間のドイツが舞台で、狙いは鱒地元の爺さんに正しい生ミミズの付け方をご教授いただくとの一節の筈。お目当ては前巻の「ヨーロッパの鱒釣り」の中にすぐ見つかった。但し、探し当てたストーリーの大筋は次の様なものである。魚影がいか

にも濃そうなスイスの川辺で、川は濁っている。ヘミングウェイH某がミミズを団子状の餌にして糸を垂らすも、当たりさえない。そこに地元のイタリア系爺さん登場。お前の餌の付け方じゃあ、いつまでやつてもダメとのご託宣。腕自慢を自認するH某としても流石に腹に据えかねて、そこまで言うなら釣つてみなと竿をわたせば、結果は老人の言う通り。日本でも田舎では時折出くわす会話と光景である。これを海釣り風に言わせれば砂虫の付け方は「ちよん掛けの垂らし具合につくる」という事にもなるのか。何事もクネクネが大事なのだ。

尚、H某によると、水が澄んできてても地虫でなら鱒は釣れるそうである。シューベルトさん、違ふじゃない…と苦笑いの次第でもあつた。いずれにせよ、これらの小編には、欧州各地の様々な人情が皮肉交じりにちりばめられており、また鱒の田舎料理の描写にも格別の味がする。一読をお勧めしたい。

事務局 向井

消防競技大会出場

4階病棟 橘高

澄明な午後私達は芦田川川岸の会場にいました、秋と言うには、少し暑い陽ざしの下で大勢の参加者の熱気とヤル気に包まれて、自分でも少し興奮していました。福山市内の会社、団体の人、マスコミ関係の人、沢山の見物人の中でお池に落ちたどんぐりのような気分、妙な心もちでした。一連の関係各署の挨拶が終わり、いよいよ競技開始です。

「楠本病院さん」のアナウンスに呼ばれ、ラインに並び「用意 ピー」笛と同時にスタートです。コースに立てられた沢山の杭とロープで作られた道を擦過しながら全速力でホースを抱えて放水線まで走ります。途中「放水はじめ」と竹内さんに叫びながら、放水線上で解放された水を待っていました。想像以上のホースから伝わる水の圧力に腕が震えを覚えました。水が少し上に振れて、うまく的に当たりません。グツと脇を閉め下に向きました、バターンと音をたてて倒れました。わずかに10数秒の行動です。一連の動きには手ごたえを感じていました。残念な結果でしたが、いい経験ができました。

もし現実には火災が起きたら、こんな風にうまく出来ませんか不安は残りますが、患者様の楠本病院での入院生活がより安全で安心なものになるよう頑張ります。



透析室

ドキッ!!

地域連携室より『楠本病院に透析室があること、どうも・・・他院であまり知られてないですよ!!』との一言より、今回透析室を紹介させて頂きます。

つつが自慢!!

透析室は病院の5階に位置しており、ナイスなロケーションです。患者待合室からの景色は周囲に高い建物がないため、ブラインドを開ければ目の前に広がる福山市の町並みと蔵王山が一望出来ます。そんな開放的な環境のせいか待合室からは、にぎやかな患者さんの声が聞こえてきます。

コンソール14台と小規模ではありませんが透析治療を行い、透析患者さんにもかわりのある診療科があつて患者さんを複数の医師・職種で診られる事が強みです。外来通院患者さんの受け入れも積極的に行っております。スタッフは一人一人向上心を持ってOJT教育を中心に、毎月部署内でテーマを決めスタッフ持ち回りで勉強会を開催しております。

『明るい挨拶・笑顔での対応』を心掛

け『思いやりの心をもって質の高い透析治療を提供する』をモットーに、居心地の良い環境が提供出来るよう目指しております。

今、現在!!

透析患者さんの高齢化と透析の長期化により、呼吸管理・リハビリテーションなどを必要とする患者さんは増加しています。しかし、基幹病院では、在院日数の関係もあり入院による長期対応は難しい現状があります。また、地域の透析施設も重症になるとなかなか管理が困難な状況が発生する場合があります。

ここに注目!!

基幹病院で治療された患者さんが、安心して地域に戻り透析施設での透析を



継続して頂けるために、当院では基幹病院から透析施設へ移行するための中間的役割が担える環境が整えられております。この『地域の基幹病院と透析施設を結ぶ掛け橋』としての役割も今後更に補って行きたいと思っております。

栄養フォーラム in 楠本 臨床検査値の読み方と栄養診断について

平成27年11月28日(土)に著名な臨床栄養実践協会 理事長 足立香代子先生を講師にお招きし『臨床検査値の読み方と栄養診断について』というテーマで講演頂きました。



当日の講演は当院医療スタッフをはじめ地域の病院や老人保健施設等さまざまな領域の管理栄養士や看護師が聴講し、とても盛況となりました。

講演では実際の医療の現場での実例や栄養診断に関する症例等をたくさんお話しいただき日頃の固い頭も少し柔らかくなりました。また、講演を通じて先生のすばらしいお人柄に触れることができました。事前の質問等にも熱心に答えて頂き、大変勉強になりました。医療現場は私の就職当時とは大きく様変わりをしていきます。NST(栄養サポートチーム)や褥瘡の栄養管理と管理栄養士の活躍の場は、当時と比べ格段に多くなっています。

先生の大変示唆に富んだ講演を伺い、明日からの患者様の栄養管理等に努めるとともに微力ながら人材の育成にも力を注ぎたいと思います。

栄養管理室 今井

蒼生 (2016年1月号)

発行 福山市曙町3丁目19番18号
医療法人蒼生会楠本病院
TEL (084) 954-3030
FAX (084) 954-9085
発行人 名誉院長 飯島崇史
発行日 2016年1月1日



理念

地域医療のニーズに応え住民の皆様の信頼を得る医療をめざします

基本方針

- ・急性期から慢性期さらには在宅支援まで含めた幅広い医療を提供いたします
- ・患者さんの安全を最優先に考える医療を行います
- ・新しい技術と知識の習得に努め、良質の医療を提供できるよう努力します
- ・快適な療養環境づくりをめざします